

第49号

令和7年5月吉日

発行所
栃木県青年神職むすび会
広報委員会

発行人
小林 誉史
印刷所

株式会社井上総合印刷

報 む す び 会



令和6年度定例総会

目次

会長退任挨拶	1
会長就任挨拶	2
栃木の神社巡り御朱印展	3
第二十八回一都七県神職野球大会	3
野州麻紙工房視察研修会	4
臨時総会	5
令和六年度 むすび会事業報告	6
令和七年度 むすび会役員・幹事氏名	7
新入会員紹介	8
退会会員紹介、祝 御誕生	9
協賛広告	10
編集後記、広報委員会名簿	11
	12



会長退任挨拶

先ず以て聖寿の万歳と皇室の弥栄を衷心よりお慶び申し上げます。神宮におかれましては、第六十三回式年遷宮に向けました諸行事滞り無く営まれておりますこと慶賀の至りに存じます。

神社庁を始め関係機関各位、先輩諸賢の皆様には平素より当会の諸活動に対しご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

上野前会長の後を引き継ぎ、令和五年度より二年間力不足ながら会長職を務めさせていただきました。コロナ禍にあった田邊期・上野期には当会も様々な活動が中止や延期、規模の縮小を余儀なくされ、会員相互の交流の機会も激減いたしました。その様な時期を乗り越え、また創立六十周年という佳節を迎え、先輩諸賢のご足跡に思いを致し気持ち新たに作り組んだ二年間でした。

任期一年目に新型コロナウイルス感染症が第五類となったことで、延期をしていた創立六十周年記念事業の一つである沖繩県戦没者慰霊祭並視察研修会を九月に斎行し、同月継続事業である御朱印展をFKD宇都宮店にて開催いたしました。そして更なる良き年にと迎えた令和六年元旦に能登半島地震が発生し、多くの方々が被災し犠牲とされました。発災直後は交通網が寸断され物流も儘ならない中ではありましたが、当会として可能な限り物資の供給を行いました。実際どのような支援が本当の助けとなるのか何ができるのか今後も向き合いつながり、頻発している災害に備える必要性を改めて痛感いたしました。

任期二年目には、九月開催の御朱印展に際し、神宮式年遷宮国民総奉賛に向け神青協が製作した神宮写真パネルのお借りし同会場にて併

栃木県青年神職むすび会

第二十六代会長 和田 晋典

せて展示を行いました。また十月には鹿沼市の野州麻紙工房にて麻の研修会を実施し、神社に必要不可欠ながら不足していた麻に関する知識を深めさせていただきました。

そして令和六年十二月五日の臨時総会では、通例の議件である次期会長の選出に加え、会員定年規定の四十五歳への延長、また年会費額の引き上げ等を決議いたしました。定年の延長については様々な意見がございましたが、次世代を担う若手会員の意見を採り入れながら検討を重ね、やはり少子高齢化により当会の会員数が急減する中でも、既存の活動の維持はもちろんのこと、より精力的に事業を展開する上で必要な一手であるとの判断に至りました。その後、同日に約十年ぶりに宿泊での忘年会を行い、定年延長をしたことで残留となる経験豊富な先輩会員と活力に満ちた若手会員とが尚一層の懇親と研鑽を積み、強固な結束の下に邁進していく決意を新たにいたしました。

結びになりますが、二年間の会務を支えていただいた黒本・小林両副会長、井上事務局長を始めとする執行役員の皆様、社務多忙の中で各事業にご協力をいただいた会員の皆様に改めて心より感謝申し上げます。次期を担う小林新会長は先輩後輩の隔てなく皆に親しまれる魅力ある人柄の持ち主です。新体制の下での更なる会員相互の結束・会の発展を期待し微力ながらお支えできるよう今後も努めてまいります。先輩諸賢におかれましても、当会の今後の行く末に引き続き温かい眼差しと格別のご高配を賜りますようお願いを申し上げます。誠に粗辞であります但し退任の挨拶といたします。



会長就任挨拶

栃木県青年神職むすび会

第二十七代会長 小林 誉史

先ず以って、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げますとともに、神宮におかれましても恙無く齋行されておりますこと、慶賀に存じ上げます。また昨年に発生を致しました能登半島地震並びに能登半島大雨災害により、多くの尊い命が失われましたことに哀悼の意を表しますと共に、未だ困難な生活を余儀なくされている皆様に衷心より御見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心より御祈念申し上げます。

日頃より、栃木県青年神職むすび会の諸活動に對しまして格別のご高配を賜りますこと、先ず以て厚く御礼申し上げます。

去る令和六年十二月の臨時総会にて、和田前会長の後任として、囃らずも第二十七代会長に就任することとなりました。もとより浅学非才の上、力不足の身でございますが、心を共にする会員とスクラム組み、重責を全うすべく誠心誠意努めてまいる所存です。

会員をはじめ、諸先輩皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

昨今、日本社会の少子高齢化や過疎問題等は斯界に於いても多大なる影響をもたらしております。氏子数の減少や後継者不足等は大きな課題であり、当会に於きましても近年の会員数は年々減少の一途を辿っております。近い将来には現在の半数になることが予想され、今まで通りの活動が厳しくなることが想定されます。今後の当会の運営を鑑み、昨年の臨時総会にて定年年齢引き上げの会則変更を諮り、全会一致で承認されました。今後は定年年齢を四十五歳とし、新たな第一歩を踏み出して参りたく存じます。単なる問題の先送りではなく、経験豊富な先輩方のお力添えを頂き、当会の一層の発展に精進してまいる所存です。

当会は昭和三十七年に発会して以来、歴代の先輩方の並々ならぬ情熱と努力、いつの時代も時勢に應じた取り組みにより守り繋いで頂き、令和四年度には創立六十周年の節目を迎えることができました。

先輩方から受け継いだ心は、今後も次世代に継承しなければなりません。当会の目的である自己研鑽と会員相互の親睦を図り、会員皆で手を取り合い、時代に即した事業を柔軟に考え展開し次世代に紡いでまいります。

令和六年四月、神宮に於かれましては天皇陛下より御聴許を拝され、第六十三回神宮式年遷宮へ向けてご準備が進められることと存じます。国民総奉賛のもとに齋行されますよう、当会としましても会員一人一人の神宮への意識向上、神宮の啓発や参宮促進活動に努めたく存じます。

また、終戦八十年を迎える本年、戦争を知らない日本人は約九割を占める時代となりました。我々若手神職は戦後の過酷な境遇を顧み、平和への願いを次世代に継承しなくてはなりません。会員皆が改めて考え、学ぶ事業を考えてまいります。

これからの時代を共に歩む会員同志の皆様、神社界の大変革期を迎えており、斯界を取り巻く環境は決して安堵状況ではありません。今だからこそ、相互扶助の精神で共に研鑽に励み親睦を深め、一致団結し強固な関係のもとに有意義な時を過ごし、むすび会で得た学びを日々の神明奉仕に活かしてまいります。

これより二年間、志を共にする仲間と斯界の発展と次世代の継承に努めてまいる所存です。今後とも諸先輩皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

栃木の神社巡り御朱印展

本年も御朱印展を九月十九日から二十四日の六日間 F K D 宇都宮店にて開催しました。

近年御朱印はより多くの方の関心を集め、御朱印をきっかけに神社を巡るようになったという方も増えていきます。その人気は日本人の方に留まらず、海外の皆様にも注目されつつあるということ日々感じます。そんな中御朱印展を開催することにより神社を身近に感じて頂けるきっかけになったと思います。

開催期間中白衣袴姿で会員が複数名常駐し御朱印や御朱印帳の紹介、神社での参拝作法などの説明などを行いました。併せてモダン神棚の展示とご希望の方へ無料にて神棚頒布を執り行いました。会場は県内外から多くのお客様で賑わっており、御朱印展を目的に来られた方やお買い物中気になって足を止めてくれた方様々な方にご来場いただき、御朱印を写真で撮られる方や次はこの神社に行こうかなどと会話をしながら楽しむ方など皆様思い思いに楽しんでいました。

私も神社へ参拝したことをきっかけに御朱印巡りを始めました。そのことで神社へ参拝する機会が増えました。皆様にとって今回の御朱印展が神社に足を運んで頂く一歩となればと願いながら今後も教化活動に勤しみたいと思います。

日光二荒山神社 手塚 健太



第二十八回一都七県神職野球大会

九月十日、大井ふ頭中央海浜公園にて第二十八回一都七県神職野球大会が開催されました。

東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・山梨県各一チーム、茨城県と千葉県の合同チーム・栃木県・群馬県の合同チームの全七チームでのトーナメント戦が行われました。

当日は天候にも恵まれ、本県は一回戦強豪の東京都チームと対戦しました。群馬県の元甲子園球児の好投、和田会長の好守備などで東京都チームに四回まで対戦しましたが五回表より東京都チームの猛攻にあい、最終六回コールド対十と大差で敗戦してしまいました。

続く二試合目は山梨チームとの対戦では、投手として登板をしましたが私自身約十五年ぶりの野球で、学生時代のように思うような球を投げられず苦戦しましたが井上事務局長の柵越えのホームランなど味方の援護もあり、チーム一丸となって、乱打戦を制しました。試合中は上司、部下という垣根を越え勝利という同じ目標にむかって取り組むことができました。

今回の野球大会を通じて神社で仕事をすることで得られない信頼関係やチームワークを築くことができ、会員同士や一都七県の方々と親睦を深めることができました。

今回の野球大会で得られた関係性を活かし、今後の神社界の発展繁栄の一助となるよう尽力していきたいです。

宇都宮二荒山神社 菱沼 祐太



野州麻紙工房視察研修会

十月二十五日、鹿沼市下永野の野州麻紙工房において、研修委員会主催「野州麻紙工房視察研修会」が行われました。むすび会員和田会長以下七名参加し、午前九時開講、先生として工房の大森芳紀様に工房の御案内と、麻についての御講話を頂く半日の研修となりました。

麻は栃木では良く採れると聞いておりましたが、神社で使用するほか馴染みが無く、この研修会を待ち望んでおりました。

まず、麻畑を見学させて頂きました。麻畑の近くはそば畑があり、小さな丘が見える、静かな場所でした。実際の麻はあまり見たことが無い形の植物で、イメージだと太古のジャングルを小さくした感じでした。栽培している麻は「トチギシロ」という品種で高さが2.5m程ありました。実際には、まだ麻ではなく栽培しているときは「オオアサ」と言うようです。このオオアサはよく鳥に食べられてしまうとの事で、すぐ近くに雀が群れでおり、狙っているようにも見えました。もっと高く育つ品種もあるということ、品種改良も進めていることを話されていました。

次に作業場を視察させて頂きました。作業は朝するとの事で実際に数名の方が作業をなされてました。始めに麻剥ぎを見せて下さいました。発酵水という水へオオアサの茎を浸け、茎から綺麗に皮を剥ぎ、ここで私たちが使わせて頂いている「麻」に見えました。次に麻ひきという作業を見学させて頂きました。こちらでは、ひと昔前の工場のような場所で、一言も話さず二人の男性の方が熱心に機械動かされておりました。麻ひきをする時、太く、立派な麻が出来上がってまいりました。一本一本丹精込めて作って下さっているんだなと作業を見させて頂きました。

次に工房にて御講話を頂きました。御講話を頂いた工房は麻の良い香りがし、落ち着く場でした。主に麻の収穫までの工程、麻の使い道

をお話し下さいました。麻は様々な物を作れるとの事で、実は七味、清麻は結納飾りの友白髪など伝統工芸品、車部品、建造物まで作れ、実際にこの工房が麻を使用した建物なのだとお教え下さいました。白いレンガのような素材で洋風のオシャレな感じの建物です。まさか麻で建物まで作れるとは、驚きました。最後に麻農家が減少中と話され、県内には十名程全国では三十名程しかおらず、栽培面積も減少中との事でした。

この度の研修会で、力強く大きく育つオオアサ、工房での作業を見学させて頂いた事を通し、麻は守っていかなければならぬ栃木県の文化なんだと学びました。神社において欠かすことの出来ない文化を継承して下さいる人々にも日々感謝の気持ちを持ち、今後の神職生活に生かして行きます。

日光二荒山神社 太岐口 建彦



臨時総会

令和六年十二月五日に日光鬼怒川ホテルにて臨時総会を開催しました。今回の臨時総会では任期満了に伴う役員改選と会員の減少に伴う退会年齢の引き上げという二つの議題を協議しました。

役員改選では各支部から選ばれた選考委員会の協議を経て、小林晉史副会長が新会長に選出されました。また、退会年齢については協議の結果、四十歳から四十五歳へ引き上げとなりました。今期で退会予定の先輩諸兄につきましても、もう少しだけお力添えを頂くことも承諾下さり、深謝いたします。退会年齢が伸びましたが、先輩諸兄に負けないよう、力を尽くしたいと思います。

臨時総会終了後はホテル内宴会所で忘年会を行いました。今まで神社庁での臨時総会、忘年会という流れが主流だった事もあり、十数年ぶりの泊まりでの忘年会となりました。過去にも同様の事を行っていたことに驚きを感じつつも、会員同士で楽しい時間を過ごし、翌日の朝解散となりました。

次年度から小林新会長を中心とした運営となります。様々な事業を行っていききたいと思います。

宇都宮二荒山神社 矢部 貴也



令和六年度 むすび会事業報告

(令和六年)

四月八日 第一回役員・委員長会議

会計監査会

四月十日 第一回一都七県協議会定例会議

四月二十三日 神青協 創立七十五周年記念大会

四月二十四日 神青協 第七十五回定例会議

四月二十八日 栃木縣護國神社 例祭奉仕

五月十四日 第二回役員・委員長会議

定例会議

五月二十一日 ところのみ学園神棚祭

五月三十一日 那須御用邸清掃奉仕活動

六月三日 第三十回神青協一都七県協議会定例会議(千葉県 主管)

(東京ベイ幕張) アパホテル&リゾート

六月四日 福島県神道青年会 創立七十五周年記念大会

六月十九日 第三回役員・委員長会議

八月二日 第二回一都七県協議会定例会議

八月二十二日 神青協 夏季セミナー

〓二十三日

八月三十日 第四回役員・委員長会議

九月五日 神青協 創立七十五周年記念事業

〓六日 竹島領土平安祈願祭

九月十日 一都七県協議会 第二十八回神職野球大会

九月十九日 御朱印展

〓二十四日

九月十九日 群馬県神職青年会 創立三十周年記念大会 ホテル小暮

栃木県神社庁

神社本庁

明治記念館

神社本庁

栃木縣護國神社

栃木県神社庁

佐野市

那須御用邸

郡山ヒューホテルマックス

栃木県神社庁

神社本庁

神社本庁

神社本庁

栃木県神社庁

隠岐の島町

大井スポーツセンター

FKD宇都宮店

九月二十四日 第五回役員・委員長会議

九月二十四日 御朱印展慰労会並びに懇親会

十月二十五日 野州麻紙工房 視察研修会

十月二十八日 東京都神道青年会 創立七十五周年記念大会

十月三十日 第三回一都七県協議会定例会議

十一月十九日 神青協 臨時総会

十一月二十五日 神青協 能登半島地震復興活動

〓二十六日

十二月五日 第六回役員・委員長会議

臨時総会・忘年会

十二月五日 第四回一都七県協議会定例会議・研修会・忘年会

(令和七年)

一月三十日 第七回役員・委員長会議

二月五日 第五回一都七県協議会定例会議・顧問会・新年会 栃木県神社庁

二月十一日 建国記念日奉祝式典・パレード 二荒山会館

二月十九日 千葉県神道青年会 創立七十五周年記念大会 京成ホテルミラマール

二月二十五日 神青協 神宮写真展 神田神社

〓二十七日

三月十八日 神青協 神宮研修会 神宮

〓十九日

三月二十五日 一都七県協議会 研修旅行会 浅草神社

〓二十六日

栃木県神社庁

宇都宮市内

鹿沼市

東京ドームホテル

神社本庁

輪島市

日光きぬ川ホテル三日月

明治神宮

栃木県神社庁

日本文化興隆財団

二荒山会館

京成ホテルミラマール

神田神社

神宮

浅草神社

令和七年度 むすび会役員・幹事氏名

【役員】

会長	小林 誉史	星宮神社	禰 宜
副会長	山本 明翔	日光二荒山神社	権禰 宜
副会長	井上 潤一	黒田原神社	宮 司
監事	和田 晋典	瀧尾神社	宮 司
監事	黒本 裕子	大宮神社	宮 司
議長	大塚 聡	白鷺神社	権禰 宜
事務局長	小林 迪寛	宇都宮二荒山神社	権禰 宜
會計	三田 真隆	日光二荒山神社	権禰 宜
庶務	小堀 巧人	島田八坂神社	宮 司
渉外	篠崎 博哉	宇都宮二荒山神社	権禰 宜

【各種委員会 正副委員長】

委員長	小幡 仁	鹿島神社	禰 宜
副委員長	須藤 茂成	日光二荒山神社	権禰 宜
副委員長	菱沼 拓己	鷺宮神社	宮 司

【広報委員会】

委員長	矢一部 貴也	宇都宮二荒山神社	権禰 宜
-----	--------	----------	------

副委員長	増渕 直紀	大平山神社	権禰 宜
------	-------	-------	------

副委員長	篠田 元暉	宇都宮二荒山神社	権禰 宜
------	-------	----------	------

【事業・親睦委員会】

委員長	櫻木 悠人	今宮神社	権禰 宜
-----	-------	------	------

副委員長	人見 圭祐	宇都宮二荒山神社	権禰 宜
------	-------	----------	------

副委員長	阿部 汀	羽黒山神社	禰 宜
------	------	-------	-----

【地区代表幹事】

中央地区 (宇河支部、宇都宮二荒山神社、栃木県護国神社)

菱沼 祐太 宇都宮二荒山神社 権禰 宜

北東部地区 (芳賀支部、大前神社、塩谷支部、南・北那須支部)

渡 伊吹 乃木神社 権禰 宜

西部地区 (上都賀支部、日光二荒山神社、古峯神社)

手塚 健太 日光二荒山神社 権禰 宜

南部地区 (下都賀支部、唐澤山神社、安佐支部、足利支部)

菱沼 拓己 鷺宮神社 宮 司

【二都七県・神青協関係】

神青協一都七県理事

小林 誉史 星宮神社 禰 宜

神青協代議員

井上 潤一 黒田原神社 宮 司

神青協一都七県事務局員

小林 迪寛 宇都宮二荒山神社 権禰 宜

神青協時局問題調査員

小堀 巧人 島田八坂神社 宮 司

神社新報社通信員

篠崎 博哉 宇都宮二荒山神社 権禰 宜

◇ 新入会員紹介 ◇

星野 宇洲やしま



奉職先 黒磯神社
役職 権禰宜
自分を一言で表現して下さい
人をもてなす、楽しませることが出来る
これからの抱負をお願いします
皆様と斯界を盛り上げていけるよう
協力したい。

笠原 康士朗



奉職先 大前神社
役職 権禰宜
自分を一言で表現して下さい
素直で、フットワークが軽い。
これからの抱負をお願いします
むすび会に入会し、神職として成長して
いきたい。

菱沼 祐太



奉職先 宇都宮二荒山神社
役職 権禰宜
自分を一言で表現して下さい
忍耐力がある
これからの抱負をお願いします
少しでも栃木県の神社界を盛りあげられる
よう頑張ります。

小倉 光稀



奉職先 須賀神社
役職 出仕
自分を一言で表現して下さい
好きなことはとことん好きになる。
これからの抱負をお願いします
謙虚にがんばります。

石川 元



奉職先 日光大室高龕神社
役職 権禰宜
自分を一言で表現して下さい
初志貫徹
これからの抱負をお願いします
出戻りとはなりません、
また宜しくお願い申し上げます。

◇ 退会会員紹介 ◇

和氣 裕美



奉職先 高原山神社
役職 禰宜

後輩へ一言お願いします
皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。
ご挨拶
大変お世話になりました。
今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

◇ 祝 御誕生 ◇

田邊 雅祥

名前 馨子（かおるこ） 長女
誕生日 令和七年二月二十日
子供への一言
健やかな成長を願っています。

小林 誉史

名前 優斗（ゆうと） 次男
誕生日 令和七年二月八日
子供への一言
優しい心を持ちたくましく成長することを願っております。

小堀 巧人

名前 來町（こまち） 長女
誕生日 令和六年六月十三日
子供への一言
友達百人できますように。



神祭具 授与品 記念品 奉製



株式会社 **神路社**

本社
〒516-0037 三重県伊勢市岩洲2丁目5番29号(私書箱第26号)
電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110
E-mail info@kamijisya.co.jp

神苑(東日本営業所)
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号 ACTビル4階
電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721
E-mail info-tokyo@kamijisya.co.jp
http://www.kamijisya.co.jp

全国各神社御用達

神符・守札・木札・錦守・御守矢・交通安全守
集印帳・御守り袋・絵馬その他各種御札・御守
奉書紙・書道半紙・耐水奉書・他各種和紙謹製

創業江戸時代後期 真心で奉仕する



今村紙業株式会社

代表取締役 今村和弘

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門6237-11
電話 055(272)0514
FAX 055(272)8818

営業品目

縁起物入おみくじ・金属製守・木札守・紙札守
金欄錦守・各種熊手・守護矢・朱印帳

おまわりの奉製

株式会社 阿部

本社・工場 〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡5203-1
TEL (0282) 62-1010(代表)
FAX (0282) 62-2061

各授与品、記念品奉製

金欄綿守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 三愛工芸

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
TEL 水戸 (029)251-2051(代)
FAX 水戸 (029)253-5844



創業百年信頼ブランド

麻・鈴緒・鰐口紐・化繊注連縄製造

有限会社 **モミヂヤ**

〒328-0042 栃木市沼和田町12-14
フリーダイヤル 0120-22-1312
FAX 0282-22-1387
<https://momidiya.com/>

社寺建築請負い

株式会社 **石川工務店**

代表取締役 石川 毅

〒321-1406 栃木県日光市松原町1233番地
TEL 0288-54-0750



総合広告代理業 Advertising Agency.

株式会社 **下野広告社**

取締役会長 山本 守

〒320-0033 宇都宮市本町9-17
☎ 028-666-8123 / Tel(代表)

授与品・記念品御奉製

株式会社 **長谷川製作所**

代表取締役 長谷川義貢

HASEGAWA
creation with warmth



〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町 466-1
TEL: 048-921-1221 / FAX: 048-921-1515

**シ御書
朱置
ル印き**

1種10枚1組
縦14.5×横10cm

四季や干支が描かれた書置き御朱印です。
ご社名、日付を記入してお使いください。

**株式会社
民俗工芸**

〒857-1162 長崎県佐世保市御本町18-1
TEL0956-34-5500 FAX0956-34-5511

漆工・極彩色・剥落止・単色塗・鍍金具・金箔・壁画及蒔絵
(建造物の復元、保存工事・美術工芸品制作及修理) 請負施工

**株式会社
小西美術工芸社**

東京本社 東京都港区芝 4-4-5 三田 KMビル3F
電話 03-5765-1481 / FAX 03-3455-9250

日光支社 栃木県日光市所野 2829-1
電話 0288-54-1198 / FAX 0288-54-1196

創業 明治以前

各種御神符・守札 その他授与品全般

湊御神符奉製所

株式会社 湊

伊勢市神宮会館前 (〒516-0025)
TEL(0596)22-2442(代表) FAX(0596)28-8445
info@ise-minato.co.jp http://www.ise-minato.co.jp

神棚に御礼をおまつりし
家内の安全をお祈りいたしましょう

神宮会館
伊勢神宮後継会

板妻神棚(中) 外寸:幅46×高44×奥20cm
内寸:幅22×高32×奥9cm
10,000円(税込) No.744

洋風神棚 外寸:幅20.6×高30.6×奥8.2cm
内寸:幅10.3×高15.3×奥4.1cm
2,000円(税込) No.1868

茅葺神棚(中) 外寸:幅57.5×高51.5×奥37.5cm
内寸:幅27.5×高27.5×奥17.5cm
50,000円(税込) No.748

※茅葺神棚・板妻神棚の大きさは各(大)(中)(小)がございます。他に懸掛け用神棚もございます。
種類・寸法など詳しくは神宮会館公式通販 (<http://jinguikaikan.shop/>) をご覧ください。

TEL **0596-22-0001** FAX **0596-22-1517**
公式通販 <http://jinguikaikan.shop/> E-mail tsuhan@jinguikaikan.jp

誠実と真心で奉仕する

御守・授与品・参拝記念品奉製

天然石厄除開運腕輪守・天然石みくじ

御一報次第カタログ御送り致します。

グリーン産商株式会社

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL (06) 6702-6009 (代表) FAX 0120-34-2996

総合印刷

(株)井上総合印刷

代表取締役会長 井上 光夫
代表取締役社長 井上加容子

本社 宇都宮市岩曾町1355
TEL(028)661-4723(代)
FAX(028)662-7607

ご協賛いただき
ありがとうございました。



◇ 編集後記 ◇

この度も協賛社の皆様、多くの諸先輩方やご協力いただきました会員関係者の皆様のお蔭をもちまして『会報むすび 第四十九号』が無事に発刊出来ましたことを心より御礼申し上げます。

今号も好評をいただき恒例となっております御朱印展を初め野州麻紙工房視察研修など諸々の事業を行いましたこと、誠に喜ばしい限りです。

また昨年の臨時総会にて小林会長が選任され新たな期がスタート致します。同時に定年年齢の見直しも行われました。当会に限った話ではございませんが会員数の減少は顕著であり、定年年齢を引き上げ新たな体制で諸活動を進めてまいります。

今後も経験豊富な諸先輩方の教えの元、むすび会の活動目的である自己研鑽と会員相互の親睦を深めるべく諸行事に取り組んで参りますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



広報委員会 名簿

委員 長	篠崎 博哉
副委員 長	矢部 貴也
副委員 長	稲 貴洋
委 員	中 田 明
	栗 原 義 宜
	大 塚 聡
	半 田 誠 也
	田 名 網 健 太
	手 塚 健 太
	菱 沼 祐 太
	阿 部 汀

栃木県青年神職むすび会 頒布品



着帯のお祝い (安産祈願) 腹帯 〈岩田帯〉

頒布価格 (1箱) **1,000円** (送料別)

くじら尺を用いて、縁起の良い7尺5寸3分 (約3m) に裁断し、高級感ある桐箱に納めました。

中の帯は、縦に二つ折にし、巻き納めてあります。(解説書在中)

注文からお届けまで、お時間をいただく場合があります。

納期に余裕をもって、ご注文ください。

ご注文
問い合わせ

〒322-0068 鹿沼市今宮町1,692 (今宮神社内)

栃木県青年神職むすび会

事業・親睦委員会 委員長 櫻木 悠人 宛

【ご注文はFAXにて受付致します】

FAX.0289-63-1477

TEL.0289-62-2679

